

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100433		
法人名	株式会社春風会		
事業所名	春風会かたおなみグループホーム1階ユニット		
所在地	和歌山県和歌山市和歌浦東4丁目3-51		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果市町村受理日	令和3年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=3090100433-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 和歌山社会福祉士会		
所在地	和歌山市手平2丁目1-2 和歌山ビッグ愛6階		
訪問調査日	令和3年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の申し送りやカンファレンスでご入居者の状態を共有し、残存機能を見極めて『できること』への支援と『できないこと』への介助を行い、ご入居者の尊厳を大切に考え、自己選択・自己決定ができる様に職員の統一したチームケアに力を入れている。、元気で安心して暮らし続けられるよう、職員を含む全員が笑顔で過ごせる場所となるように『ご入居者と共に』を大切に取り組んでいる。
24時間365日の医療連携体制を築き、主治医・訪問看護・家族・職員が連携して、ご入居者の体調変化に早期に対応して、認知症状の悪化、病気の重篤化予防に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

片男波の浜辺が一望できるところに立地し、壮大な風景を間近に感じることができる。玄関前には、手入れがされた花壇に季節を感じる草花が咲いており、心が癒される環境である。また、地元で事業を開始して10年が経過しようとしている中、グループホームの理念にある「いつも地域の皆様と共に歩みます」を合言葉に地域を意識し、地域に根差した介護支援に取り組んでいる。いつも入居者や職員に笑顔が溢れ、笑い声の絶えない時間空間を作り出している。地域住民もまた、この事業所の職員や入居者を地域へ取り込んでおり、地域全体でより質の高い介護サービスを目指すことが出来るようになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100433		
法人名	株式会社春風会		
事業所名	春風会かたおなみグループホーム2階ユニット		
所在地	和歌山県和歌山市和歌浦東4丁目3-51		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果市町村受理日	令和3年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=3090100433-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 和歌山社会福祉士会		
所在地	和歌山市手平2丁目1-2 和歌山ビッグ愛6階		
訪問調査日	令和3年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の申し送りやカンファレンスでご入居者の状態を共有し、残存機能を見極めて『できること』への支援と『できないこと』への介助を行い、ご入居者の尊厳を大切に考え、自己選択・自己決定ができる様に職員の統一したチームケアに力を入れている。、元気で安心して暮らし続けられるよう、職員を含む全員が笑顔で過ごせる場所となるように『ご入居者と共に』を大切に取り組んでいる。
24時間365日の医療連携体制を築き、主治医・訪問看護・家族・職員が連携して、ご入居者の体調変化に早期に対応して、認知症状の悪化、病気の重篤化予防に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

片男波の浜辺が一望できるところに立地し、壮大な風景を間近に感じることができる。玄関前には、手入れがされた花壇に季節を感じる草花が咲いており、心が癒される環境である。また、地元で事業を開始して10年が経過しようとしている中、グループホームの理念にある「いつも地域の皆様と共に歩みます」を合言葉に地域を意識し、地域に根差した介護支援に取り組んでいる。いつも入居者や職員に笑顔が溢れ、笑い声の絶えない時間空間を作り出している。地域住民もまた、この事業所の職員や入居者を地域へ取り込んでおり、地域全体でより質の高い介護サービスを目指すことが出来るようになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念を基にグループホームとしての理念をつくり、玄関先や2階リビングに掲げている。毎月のカンファレンスでも理念の共有化を図り実践に繋げている。	理念は開設当初に職員で考え作り出したものを長年に渡り、継承している。玄関先に掲示し、カンファレンスや会議の時に唱和し理念の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	かたおなみ事業所として南津屋自治会に入会して、毎年班長をさせてもらい回覧板を回したり、ご近所の皆様にお声かけをして交流している。	管理者は自治会の班長を長年務めている。コロナ禍で地域の行事が縮小している中、「自分達に出来ることはないか」と常に考え、地域の清掃活動などに自主的、積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	津屋見守りネットワークを作り、地域の人々が集まれる場所として事業所に隣接したところに地域サロンを開いている。コロナ禍で現在は地域サロンは一時閉鎖している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催して、ご入居者の様子や事故・ヒヤリハット報告、行事や職員の異動などを報告して、地域の方、行政、訪問看護ステーション、ご家族、入居者のメンバーで意見交換や助言をいただいている。	運営推進会議もコロナ禍で中止になることもあり、参加者が少なくなっているが、近隣の方にも参加を依頼する等の工夫が見られる。会議の中では参加者の意見や助言などを確認しながら対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	和歌山市和歌浦支所には、毎月のグループホームだよりを届け、包括雑賀にはご入居者の情報を積極的に伝え、オムツの支給や理容券等面会に来てもらい相談してサービスに繋げている。	支所長や包括支援センターの職員なども運営推進会議に積極的に参加をして貰っている。また、支所へも毎月のグループ便りなどを配布し、利用者や事業運営の情報共有を図り、より良い関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のための指針を作成し、カンファレンスで読み合わせをして理解を深めている。玄関の施錠はもちろんの事、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等適正化の指針を作成し、新人だけでなく、中堅や派遣職員の研修にも努めている。また、カンファレンスや会議でも取り上げ、「なぜ身体拘束は駄目なのか」を徹底して研修し実践している。人権関係以外でも、職員の中で問題が発生すれば個別面談を行ない、拘束等が生まれない、生まれにくい体制が取れるよう、指導の徹底を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入職員研修やカンファレンスを利用して定期的に学ぶ機会を設けている。日頃から虐待の芽を摘む不適切なケアの見直しに職員同士で意識して取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に管理者、推進委員は積極的に参加して学んだ内容を職場に伝達している。必要に応じて関係者に相談して活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族、代理人とは面会時間をとり、契約内容についての説明をして、家族様の不安や疑問がないか確認している。改定時や内容の変更があった場合は文章や電話で丁寧に説明して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や来所にあたってはご意見・提案カードを玄関に設置してご記入いただいている。直接提案やご意見をお電話で頂く事もあり、会社運営に反映できる様に努めている。	コロナ禍で面会が規制されたりしているが、手紙や電話連絡などにて、家族の希望や意向を確認しながら対応している。情報は職員間で共有を行ない、必要なものは事業運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回は代表と事業所管理者が会議をして運営状況を把握する機会があり、職員の意見や提案を聴き反映させている。	管理者が、職員の意見をカンファレンスや個別面談にて把握し、必要があれば代表者会議に反映している。工夫により、職員にとっては意見の言いやすい環境であり、不平や不満に繋がらず、より良い意見集約となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて個人面談を行い、職員が働きやすい環境や向上心を持って働ける様な条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は評価者アセッサーに登録され、職員のスキルアップの為にOJTを行っている。人材育成の為に実践者研修やインストラクター研修に定期的に参加してもらい、研修に参加する職員を推薦している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一般社団法人『民間事業者の質を高める』全国介護事業者協議会に加入して事例検討や勉強会に定期的に参加してサービスの向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居者の想いを大切に、個々に自己選択・自己決定ができる環境をつくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に必ずご家族と面会をして意向や要望を聴いて信頼関係の構築に努めている。面会できない場合は電話で連絡をしてお話を聴かせてもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされる支援を専門職として見極め、本人やご家族に詳しい情報を提供している。必要に応じて他のサービス利用も提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『平等な信頼の絆を深めます』のグループホーム理念通り、介助者のペースで支援することなく、共に支え合う関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の負担のない範囲でご協力をお願いしている。情報の共有をしてご家族の気持ちを大切にしながら共に支えていける関係性に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会を自粛して頂いている中、日々の写真を送ったり、お手紙をもらったり、電話で状態をお知らせしたりして関係が途切れないように努めている。	コロナ禍で面会を自粛されている中で関係性を継続することが難しいが、事業所からグループホーム便りを発信したり、入居者の状態を伝える回数を増やす等の工夫で、馴染みの関係を継続している。感謝の手紙が返ってくる等の交流が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者の性格を把握し、居心地の良い環境を整備して利用者同士が共に楽しく生活を送れる様に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院したりした場合は定期的に連絡をして様子を聴いたり、サービスが必要になった場合の相談や支援ができる様に取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、ご入居者の想いや希望を確認するためにコミュニケーションを図り、本人の選択に合わせた支援を心がけている。	一人ひとりの思いや意向は日常の言葉や表情、行動から理解に努めている。理解を深めることにより、本人の思いや希望の支援を行えるよう、カンファレンス等で共有し本人支援へ取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者との会話から生活歴や、環境、どんな暮らし方をされてきたかを聴きとり把握できる様に努めている。在宅での担当ケアマネやご家族からも情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活を共にしながら、日々の変化に早く気づける様に努めている。表情や会話の内容からも観察し、職員間でも情報交換をして把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が中心となって全職員で個々の再アセスメント・モニタリングをしてご家族に状態変化などを伝えた上で、意向を確認し、主治医に相談をして計画作成に反映している。	アセスメントは、本人の状況を確認しながら、職員、家族、訪問看護、主治医の意見を基に介護計画を見直し、カンファレンスで共有している。意向確認を重要視し、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者記録に時間系列で記入して職員が共有できるようにしている。気づきや工夫などは毎日の申し送りノートを利用して情報交換し、介護の見直しや振り返りに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り社会資源を活用してご入居者のQOLを高められるように努めている。コロナ禍で地域参加や訪問に来てもらにくい状況ではあるが、訪問理容や車でのパン販売も利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療機関、訪問看護ステーション、訪問理容、介護タクシー、美容室、スーパー、神社等地域資源を活用してご入居者の安全で豊かな暮らしを維持できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅でのかかりつけ医が引き続きグループホームに往診に来ていただいております。ご家族とも納得されている。常に主治医との連携を密にしており、急変時でも対応してくれています。	基本的に、入居前の主治医が受け持ち医となり、往診等も継続されている。利用者も安心して過ごすことができている。また、職員が日頃の様子を主治医に連絡し関係性も良くなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションによる週2回の定期訪問ではご入居者の情報や変化を伝えて、必要に応じて主治医に連絡や、アドバイス、助言をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から医療機関の地域連携室と情報交換をして入退院の際にもカンファレンスをして相談やご指導をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、状態変化時等早い時期から終末期について説明をしてその時々で家族様の意向や希望を聴いて同意してもらっている。主治医をはじめとして訪問看護ステーション、ご家族、職員がチームでターミナルケアに取り組んでいる。	看取りに対する研修や経験が職員の自信へと繋がっている。家族には利用契約時に終末期の説明を行ない、意向や希望の確認を行っている。主治医や訪問看護と共にチームで共有しながら適切に対応できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急手当や初期対応は委託している訪問看護ステーションがカンファレンスで勉強会をしてくれているが、すべての職員が実践力を身につけるところまでは至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した避難訓練を実施している。避難経路や避難場所は全職員が把握して実践している。備蓄の準備もできている。地域との協力体制は具体的には決まっていなが、ご近所との関係性は築けている。	近隣との関係性は良く応援体制が築けている。昼夜を想定し避難訓練を実行している。避難経路の確保は全職員が把握している。立地条件のこともあり、有事の際の行動計画とまでは至っていない。	立地のこともあり、今後予想される津波に対して、支所や包括支援センター、地域の住民との話し合いにおいて、再度計画を見直し、避難場所の設定や行動計画等の変更により、「命を守る行動」が取れる内容となることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスでも尊厳とプライバシーの確保については勉強会をして、職員は常に意識をもって対応しているが、言葉かけなどは関係性が慣れ合いになってしまっている現状もあり、改善すべき課題である。	カンファレンスや会議においては、一人ひとりの尊重やプライバシーの確保は職員が意識出来るよう指導されている。長期入所者や長年勤務している職員にとっては、どうしても馴れ合いになることが多く、課題となっている。	「どうして馴れ合いになるのか。どうして駄目なのか。」を職員同士が話し合い、一人ひとりが納得した上で尊重して関わられるように期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の思いや希望を確認する言葉かけをしている。はっきりと意思表示できる方ばかりではないので、より工夫と環境整備が必要であると考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事時間、就寝時間など個別でその人の暮らしのペースに合わせて対応するようにしている。その日の体調や、気分によっても違うのでご入居者本位で支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を選んで着たりすること、お化粧品や整容に関しても自分で出来るだけ楽しんでできる様に支援している。パーマや毛染めについても本人の意向を聴いて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人のできる力を引き出しながら、一緒に盛り付けやお膳拭き、食器洗いなどをしてもらっている。最近では節分の巻き寿司を楽しそうに巻いてくださった。	一人ひとりのできることを大切にし、調理にも参加出来るようにしており、「食事を美味しく、楽しく」を基本として関わられている。グループホームだより等にも笑顔の写真があり、実際の場面が窺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者の咀嚼力、嚥下状態などを把握して、個々に食事形態を考えて提供している。水分はトロミをつけたり、好みの飲み物を提供して、十分に摂取できるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には毎食後声掛けをしている。口腔洗浄液を使用して口臭予防をしたり、口腔ティッシュを使用して介助している。ケアの難しい方は歯科医の往診を受け指導してもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンとタイミングを把握して対応している。できるだけトイレで排泄できるように座位確保や立ち上がりの安全のために、二人介助をして自立支援をしている。	個別に排泄パターンを把握し、「トイレでの排泄」に取り組んでいる。本人の状態を観察確認するだけでなく、支援した内容を細かく、職員間で共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自然排便があるように海藻類やヨーグルト等を提供している。お腹のマッサージも看護師の指導の下行っている。排便チェックシートに便の状態や回数などを記録して便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やその日の気分によって入浴を希望されない方には午後からのお誘いをするなど臨機応変に対応している。重度化の対応としてはリフト浴、シャワー浴、足浴などの支援をしている。	入浴はその人の希望を確認しながら行っている。隔日に入浴する方もあり、また、希望されない方や重度化した方に対しても、時間や職員の変更、リフト浴なども取り入れて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝や、体調維持のための休息は個別に支援している。昼夜逆転にならない様子をその時々で個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用については、薬の内容が変わった時点で共有しているが、全職員が理解しているまでは至っていない。服薬後の様子観察は職員間で確認して情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で外出支援が困難な状況であるので、施設内で楽しめる取り組みを考えている。特技を活かした塗り絵やパズル、嗜好品を献立に取り入れ少しでも楽しんでもらえるよう食事やおやつを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は施設の前の海沿いを散歩したり、ドライブなどに出かける。以前は家族と食事に出かけたり、旅行等していたが今は自粛して頂いている。	コロナ禍の影響にて、外出支援があまり行われていない。家族の面会も規制されている中で、工夫しながら支援に取り組んでいる。入居者は職員との関わりの中で、早く日常的に外出できる日を楽しみに過ごされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に1回、車でパンの販売があり、好きなパンを選んで買ったりしている。季節の洋服なども買ってきてほしいと言われて代行することがある。財布を所持している方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご主人やお友達からお手紙やはがきが届く方もいる。お電話で声を聞いたり、メールで様子を伝えたり交流できる様に支援している。。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせる空間づくりに工夫している。カーテンやすだれで陽射しを加減したり、壁飾りを作成して季節感を取り入れている。冬は床暖房をつけて湿度や温度、換気にも配慮している。	季節を感じさせる壁飾りを作成したりして楽しんでいる。床暖房など快適に過ごせる環境も整えており、屋内で過ごすことが多い時期でも居心地の良い空間を作っている。廊下の窓からは、和歌浦湾が眺望出来、入居者の安らぎの空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者同士で座るテーブルの配置を工夫したり、カウンターを利用して一人で居る環境も提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れたタンスや、椅子、鏡台を設置したり、家族の写真や、お気に入りの人形を飾ったりしている。本人の希望で、畳みを敷いて布団で寝ている方もいる。	居室は、入居者の好みに応じて工夫がされている。安心して暮らせるように、また寂しくならないように使い慣れた家具や馴染みの品、家族の写真などを配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室からトイレまで手すりを付けたり、センサーマットで立ち上がりを知らせてもらって歩行の見守りをしている。玄関にはミラーやセンサーを設置し、動線には障害物を置かないように工夫している。		